



日本キリスト教団  
**三軒茶屋教会**  
<http://sanchurch.jp/>

# 三軒茶屋教会通り

〒154-0024  
 第55号 2017年7月発行 東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5  
 TEL/FAX: 03-3418-4933  
 発行：三軒茶屋教会 広報部

1985年7月14日(日)午後3時から三軒茶屋教会は現会堂の献堂式を執り行った。当時の式次第を手にすると、志高く希望にみちた献堂の時となった様子が伝わってくる。

その当時、この教会の現牧師は仙台から上京して間もない18歳の大学1年生であった。しかも教会に通い始めたばかりで、洗礼を受けたキリスト者ではなかった。

もし、あの献堂式の最中、見知らぬ人が現れてこう語りかけていたらどう聞こえただろう。「この教会の将来を牧する教師は、今日の時点ではまだキリスト者にもなっていない18歳の一青年で、この教会の存在すら知りません」。

献堂式の祝賀ムードに水を差すどころか、「ありえない」「到底受け入れられない」「この教会を全く知らない若造などに務まるわけがない」「断固拒否する」。そのような声が挙がっただろう。

しかし、献堂式から25年もたないうちに、その一青年がこの教会を牧するよう招聘されたのである。

十字架と復活の主キリストの御体なる教会とは、時に、人間が抱き得る期待や願望をはるかに超えた出来事が本当に起こる。もつと言え、

## まだ見ぬその人を招き入れる

牧師 **伊藤英志**

全く信じられない出来事が起こるのが教会という領域なのだ。

1985年当時のあの一青年は、将来、自分が牧師になるとは一度も考えたことがなく、別の夢を追い続けていた。教会の礼拝に思い始めた当初は、受洗してまで教会に関わる志はなかったかもしれない。

しかし同年クリスマスに19歳で受洗、牧師の勧めですぐに教会学校の教師としての奉仕が託された。日曜日が一番早起する朝となる日々が始まった。初めての担当は小学校

1・2年生の分級。あの子どもたちのその後の消息は解らないが、今は40歳を迎えていることは確かだ。

受洗後まもなく、大学が主催するタイ国でのワークキャンプを通して新しい世界が開かれ、卒業後もそのプログラムの舞台となった大学で4年間に渡って日本語講師を勤めた。

この間、海外各地からタイに派遣されていた宣教師たちとの出会いが、その後の歩みに大きな影響を与えることになる。

15年前の2002年春に献身した元一青年は、まだ三軒茶屋教会を知らないままだった。その存在を知らな至ったのは2009年を迎えた頃だった。

教会とは、まだ見ぬその人を迎え入れていく不思議な空間だ。

今日、この教会について全く知らない人が、来るべき日に礼拝に連なり始める人となる。洗礼を受け、時を経て役員にも選ばれ、中には献身する者も出る。あるいは、この教会と縁がなかった教師が招聘される。



これらは例外なく奇跡の出来事であるとしか言いようがない。理想像通りの人々が集い、計画通りに物事が進み、誰

もが満足できるような歩みとなって安堵しているような教会は、むしろ滅びに至る路を進んでいるのかもしれない。

まだ見ぬその人の多くは、すでにこの地上のどこかで生きている。これから地上に生を受ける人々が、将来、この教会に連なっていく。

神が成し遂げるこの御業に信頼し、まだ見ぬ未知の人々を喜んで受け入れられる。その健やか信仰を継承していく教会であり続けたい。